



多摩辺

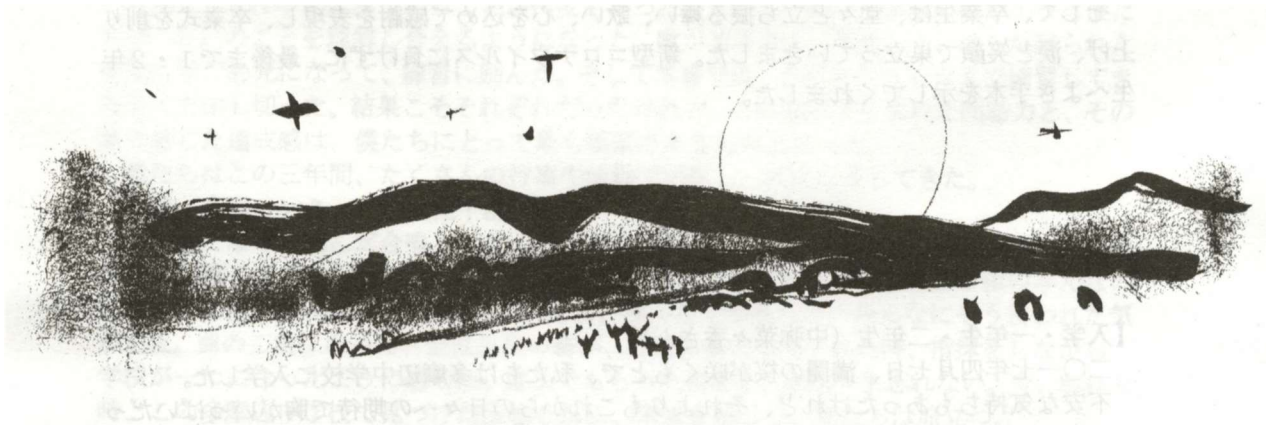
学 校 だ よ り

昭島市立多摩辺中学校

校 長 相 部 公 太 郎

令 和 2 年 3 月 2 5 日

山川異域 風月同天 ～第42回卒業式式辞 抜粋～



卒業にあたり、皆さんに、次の漢詩を贈ります。

「山川異域 風月同天」山川域を異にすれども 風月、天を同じとす。

これは、日本青少年育成協会が中国にマスクや体温計を送ったときに、箱に添えた漢詩です。山や川が異なろうと、風や月は同じ天の下にある。場所は違っても心はつながっていると思いを込めたものです。中国では、称賛と感謝と共にこの話がSNSで広がりました。また、このことを受けて日本に住む中国の方が、名古屋の街頭でマスク 5 千枚を無料配布しました。不安が広がる中、心温まる話です。皆さんも、他人が困っていたり苦しんでいたるときに、心を遣える人に、ぜひなってください。そして、自らが辛いとき苦しい時には、この漢詩のように、心がつながっている人がいるんだということを忘れず、試練に立ち向かってください。

卒業は別れです。中学校が懐かしくなっても、振り返ることなく、ひたむきに進んでください。でも、苦しくて、どうしようもなくなった時に、多摩辺中学校を思い出したら、中学校の先生を思い出したら、その時は、迷わず来てくださいね。ここは、皆さんのこころのふるさとです。

山川域を異にすれども、風月、天を同じとす。生活する場所が違っても心はつながっています。勇気をもって、これから進む道を切り拓いてください。本日の卒業式が、皆さんの輝かしい未来への第一歩となることを祈っています。

ありがとう 卒業生

～ 感謝を胸に、95名の卒業生が巣立っていきました ～

卒業生は、普段ならば、3月は、展示会・舞台発表会、球技大会、百人一首大会などの行事を楽しみながら、卒業までのカウントダウンが始まり、卒業式の練習を行う中で、3年間を振り返り、3年間の総まとめとして卒業式を創り上げていきます。しかし、今回の卒業式は、当日に初めて全員で動きを確認して一回歌を練習して本番を迎えました。

そして、卒業生は、堂々と立ち振る舞い、歌い、心を込めて感謝を表現し、卒業式を創り上げ、涙と笑顔で巣立っていきました。新型コロナウイルスに負けずに、最後まで1・2年生へよき手本を示してくれました。

令和元年度卒業生「別れのことばと歌」 【全文】

【入学・一年生・二年生（ さん）】

二〇一七年四月七日、満開の桜が咲くもとの、私たちは多摩辺中学校に入学した。

不安な気持ちもあったけれど、それよりもこれからの日々への期待で胸がいっぱいだった。新しい仲間と一生懸命勉強に励み、他愛のない会話をするのがとても楽しかった。ふざけたり騒いだりして先生に怒られることもあったが、いつのまにか「初めて」の不安はなくなり、気が付けばあっという間に一年が過ぎていた。

二年生になり、初めて後輩ができた。私たちは模範となる行動をしようと奮闘した。行事でも団結力が強くなり、少しずつ先輩という自覚がもてるようになった。

楽しみにしていた小川村農業体験。この日のために何ヶ月も準備したが、三日間ともあいにくの雨だった。かっぱを着て行った農作業。農家の方のおおき作り。室内中心ではあったが、友達や農家の方々と親交を深め、様々なことを学んだ。

一月には職場体験があった。初めて「働く」ということを経験した。思いのほか緊張し、難しく大変だった。しかし、短い間ではあったが、働く大人の一員になれたことは、貴重な財産になった。

この二年間で多くのことを経験し、乗り越えてきた私たちの絆は、確実に深まっていった。

【部活動・三年生運動会（ くん）】

中学校生活を語る上で、部活動は絶対外せない。二年生の夏に先輩たちが引退し、僕たちが部活動の中心となり、部員を引っ張っていく立場となった。練習が思うように進まなかったり、意見の対立があったりと、上手くいかないことも度々あった。それでも、仲間と励まし合いながら、同じ目標に向かって頑張ってきた。

仲間と共に打ち込むことの楽しさ、負けてしまったときの悔しさ、自分の技術が向上していく嬉しさなど、部活動を通して僕たちは多くのことを経験し、成長した。

三年生になり、すぐに運動会の練習が始まった。学年種目は「大むかで」。全種目の中で、最もクラスの心を一つにしなければならない種目だった。足がなかなかそろわない。声が出ない。最初はどうすれば止まらずに進めるのか分からず、試行錯誤の日々だった。たくさん転び、たくさん話し合い、悩みながらも団結して迎えた当日。一人一人が緊張と勝利への思いを胸に、各種目へと臨んだ。勝負だから、勝ち負けはついてしまう。しかし、そこで感じたクラスをも越えた一体感は、この学年だからこそ得られたものだったと思う。僕たちは勝つことよりも、一つの目標に向かって努力する大切さを学んだ。

【修学旅行・三年生合唱コンクール（ くん）】

運動会が終わると、修学旅行の準備が始まった。自分たちで計画し、自分たちで行動する。この修学旅行を自分たちの手で創り上げようと思った。

日本を代表する建造物を実際に目にしたことは、写真を見たり、歴史を文字で追ったりするよりも、僕たちに深い感動を与えてくれた。一、二年生の校外学習を経て、集大成となったこの修学旅行。宿舎や新幹線では、仲間と楽しい時間を共有することができた。互いに協力し、助け合って過ごした三日間。仲間との絆が深まり、忘れられない思い出になった。

十月になり、合唱コンクールの練習が始まった。それぞれのクラスの最優秀賞にかける思いは強く、それゆえにぶつかることが何度もあった。しかし、決してあきらめなかった僕たちは、互いのことを理解し合えるようになった。歌が苦手な人、得意な人、誰もが限られた時間の中で必死になって、練習に励んだ。そして本番では、どのクラスも今まで練習してきた全てを出し切った。結果こそそれぞれだったけれど、この過程で生まれた団結力と、その後で感じた達成感は、僕たちにとって最も価値のあるものとなった。

僕たちはこの三年間、たくさんの行事や活動で団結し、共に成長してきた。

【8組・合唱コンクール（ さん）】

3年生になって挑んだ合唱コンクールの指揮者。ステージ上で白い光を浴びた時、私は緊張で足の震えが止まらなかった。そんな時、私を落ち着かせてくれたのは、8組のみんなの自信に満ち溢れた表情だった。「大丈夫だよ、みんなで頑張ろう」みんなにそう言われた気がした。曲の二番になって、全校生徒の皆が、合唱に参加してくれた時、指揮をしながら、学校が一つになったように感じた。壇上でもらった拍手を、私は一生忘れない。今、別れの時、この多摩辺中学校で見つけた宝物を胸に、未来を信じて、私たちは旅立つ。

合唱「旅立ちの日に」	指揮	さん	伴奏	さん
------------	----	----	----	----

白い光の中に 山なみは萌えて 遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ 自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼にこめて 希望の風にのり このひろい大空に 夢をたくして

懐かしい友の声 ふとよみがえる 意味もないいさかいに 泣いたあのとき
心かよったうれしさに 抱き合った日よ みんなすぎたけれど 思い出強く抱いて
勇気を翼に込めて 希望の風にのり このひろい大空に 夢をたくして

今 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力信じて
このひろい このひろい 大空に

今 別れのとき 飛び立とう 未来信じて 弾む若い力信じて
このひろい このひろい 大空に

【進路（ さん）】

「最後の運動会」「最後の合唱コンクール」。大きな行事が一つ一つ終わっていく。そして迫ってきた進路選択。「合唱コンクールが終わると受験一色になる。」以前からよく耳にはしていたが、いざその時期になってもあまり実感が湧かなかった。自分に合った進路とは何だろう。自分にしか出せない答えが、見つからない。受験生なのに、勉強に身が入らなかった。そんな私たちの転機は、二学期の期末テストだったように思う。わずかな休み時間にも、問題集を開いて勉強する光景が当たり前になっていた。けれど、いくら勉強しても、自信がもてない。不安が解消されず、追い詰められた日々。人や物にあたってしまうこともあった。しかしこの日々があったからこそ、今の私たちがある。これからも私たちは、様々なことを乗り越え、自分の未来を切り拓き続ける。

【感謝・仲間へ・旅立ち（ さん）】

私たちは今日、この多摩辺中学校を卒業する。

長いようで短い三年間は、間違いなく私たちにとってかけがえのない宝物だった。

私たちについてきてくれた一、二年生みなさん、本当にありがとうございます。私たちの思い出深い母校、多摩辺中をますます発展させていってください。

たくさん迷惑をかけて、たくさんお世話になった先生方。どんな時でも私たちを支えてくださり、本当に、本当にありがとうございました。

そして、陰で大きなサポートをし続けてくれた家族のみんなへ。誰よりも応援してくれたこと、義務教育を終える今日この日までの十五年間、大切に育ててくれたこと、本当に感謝しています。

たかが三年、されど三年。きっと私たち一人一人では、楽しかったと思うことも、得たものも違うだろう。でも、私たちはこの三年間を共に歩んだ仲間だ。顔を合わせて笑い合うことが日常になるくらい、一緒に過ごした仲間だ。みんなで授業を受けることや、「おはよう」から「また明日ね」と言えることが当たり前になりすぎて、みんなのいない新しい生活が、凄く、凄く寂しい。

それでも、私たちは前を向かなければならない。数え切れないほどの思い出に、「さようなら」と「ありがとう」を込めて。

終わりではない。ここからまた始まる。

新たな自分に成長するための通過点。多摩辺中、先生方、家族、そして、この95人の仲間へ、本当に、ありがとう。

離ればなれになっても、私たちはきっとこの空でつながっている。

合唱「群青」 指揮 さん 伴奏 さん

ああ あの街で生まれて君と出会い たくさんの思い出抱いて 一緒に時を過ごしたね
今旅立つ日 見える景色は違って 遠い場所で 君も同じ空 きっと見上げてるはず
「またね」と手を振るけど 明日も会えるのかな 遠ざかる 君の笑顔今でも忘れない
あの日見た夕日 あの日見た花火 いつでも君がいたね 当たり前が幸せと知った
自転車をこいで 君と行った海 鮮やかな記憶が 目を閉じれば 群青に染まる
あれから二年の日は 僕らの中を過ぎて 三月の風に吹かれ 君を今でも想う
響けこの歌声 響け遠くまでも あの空の彼方へも 大切な全てに届け
涙のあとにも 見上げた夜空に 希望が光ってるよ
僕らを待つ群青の街で
きっとまた会おう あの街で会おう
僕らの約束は 消えはしない 群青の絆 また会おう 群青の街で

【 くん】 お世話になった先生方、家族のみんな。

【 さん】 三年間、ありがとうございました。

【全員】 ありがとうございました。

1・2年の保護者・地域の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症対策による休校の間、「感染症防止」「学習」「食」「睡眠」「適度の運動」などへの気配り等ありがとうございます。引き続き、ご家庭と地域で卒業生・在校生の安全と成長を見守っていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

また、保護者・地域の皆さまにおかれましては、今年度、PTA活動や地域活動を始めてとして、本校の教育にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。